



①2025ホークスカップ中学硬式野球大会に出場した福岡福津ボーイズの皆さん②第80回九州合唱コンクールに出場した福岡小学校・神興東小学校の合唱クラブの児童たち③第41回若葉カップ全国小学生大会、第26回ダイハツ全国小学生ABCバドミントン大会に出場した貞木翔陽さん④第36回全国都道府県中学生相撲選手権大会に出場した福本崇吉さん

全国・九州大会を舞台に子どもたちが躍動
福津の小・中学生が全国・九州大会に出場
市内の小・中学生がスポーツや武道の大会、音楽のコンクールで好成績を納め、全国・九州大会への出場を決め、市長・教育長を表彰訪問しました。それぞれ「一戦一戦全力で戦いたい」「絶対に1位になりたい」といった抱負を語っていました。



▲高校紹介をしながら楽しそうに中学生と話をする生徒たち

この企画を練りました。5人のうちの一人、西田明香里さんは「こんなに大ごとになるとは」と恐縮しますが、企画を知った周りの大人たちも盛り上げ、イベントが実現。このイベントが開催できたことに西田さんたちも手応えを感じていました。

後輩のために動いた現役高校生
先輩に聴こう！高校生活のリアル
中学生の高校選択の助になればと、現役高校生が一堂に会して高校について語る「先輩に聴こう！高校生活のリアル」が8月19日に開催されました。
登下校の手段や部活動のことなどを質問する中学生に、パンフレットなどを見せながら紹介する高校生。
真剣な表情で話をするブースもあれば、和気あいあいと盛り上がり楽しそうなブースもありました。
このプロジェクトを企画したのは、普段から地域でのボランティア活動に精を出す5人の高校生。地域で高齢者向けの「スマホカフェ」などを開催しながら、



▲出水さんから絵本を受け取るキッカケラボ職員

家族や自分と向き合う絵本
「たびする家」の絵本を寄贈
イケア・ジャパン株式会社から市未来共創センターキッカケラボに絵本を寄贈いただきました。この絵本は、多様な暮らしを学ぶことで、固定観念を見つめ直したり、家族や自分と向き合い、対話を促したりする内容になっています。
イケア・ジャパン株式会社の出水さんは「自宅での過ごし方が多様化している中で、絵本を通じて、どのようにしたらより快適な暮らしができるのか考えるきっかけにしてほしい」と話していました。
この絵本は、キッカケラボなどで見ることが出来ます。ぜひ一度ご覧ください。



▲陶器を塗装しドライヤーで乾かす仕事人とのぞき込む生徒

「働く」ことを学ぶ
福津の仕事人
地域の仕事に触れる特別授業「福津の仕事人」が、8月29日に津屋崎中学校で開催されました。市商工会青年部の協力のもと、地元で活躍するさまざまな業種の専門家が講師として参加し、2年生162人が仕事の魅力ややりがいを経験する貴重な時間を過ごしました。
少人数グループに分かれた対話形式の授業と、体験授業が行われ、体験授業では、建築板金業や飲食業などの仕事の一部を体験。授業を終えた生徒からは「自分の将来を考えるきっかけになった」といった前向きな声が上がっていました。

読者の皆さんから寄せられた市内の出来事や旬の話題をお届け～
街角カメラリポート

津屋崎千軒民俗館藍の家を訪ねて
今回は広報ボランティア上肥保見さんからの投稿です

津屋崎千軒民俗館藍の家(以下「藍の家」)を訪れ、藍の家保存会の古閑由美代表に話を聞きました。
藍の家は、明治34年、旧染物屋の上妻善兵衛さんによって建てられました。平成に入り、建物が老朽化したことから、一時は取り壊すという話が持ち上がります。しかし、歴史的価値の高い上妻邸を守ろうと地域の人々が立ち上がり、保存活動が始まりました。

平成6年には、名称が「津屋崎千軒民俗館藍の家」に決まり、建物が津屋崎町に寄贈されると、平成20年から藍の家保存会が藍の家の運営を行っているそうです。
藍の家には、塩木と呼ばれる大きな梁や90度回転する戸袋などの優れた建築様式が施されています。平成20年には来館者が2万人を超え、地域の人々が藍染め体験やさまざまな作品展・ミニコン

サートなども開催しています。
もうすぐ建築から125年。これからも藍の家保存に頑張ってほしいと思います。



▲さまざまな展示が行われています



▲GX宣言書を掲げる福井市長と林田産業の皆さん

環境と経済の両立を目指して
株式会社林田産業がGX宣言
地球温暖化などが深刻化する中、私たちは持続可能な社会の実現に向けた努力を続ける必要があります。8月5日には、株式会社林田産業がGX宣言を行いました。
GXは「グリーン・トランスフォーメーション」といい、再生可能エネルギーの活用などを通じて、環境への負荷を減らしながら、地域経済や暮らしの質を高めていく取り組みです。これは市のゼロカーボンシティ宣言の理念にも沿うものです。
林田和也取締役から市長にGX宣言書が手渡され、脱炭素社会実現に向けての決意を新たにしていました。